



旧古賀家



旧福田家



3月3日は「上巳の節句」。子どもたちの成長や健康を願う年中行事の一つ「ひな祭り」として親しまれてきました。佐賀市内では3月15日までの期間中、今年で26回目を迎える佐賀の春の風物詩「佐賀城下ひなまつり」が開催されています。昨年からは始まったスタンプラリーに加え、今年には新市誕生20周年を記念して、工藤ノリコさんが描く大人気絵本シリーズ「ノラネコぐんだん」とコラボレーション。ノラネコぐんだんが佐賀県に上陸するのは初めてで、いつもとは違う佐賀城下ひなまつりを堪能できそうです。

特集 佐賀の街に春の訪れ

佐賀城下ひなまつりを楽しもう

な施設を中心に散策してみました。「ノラネコぐんだん」一色の旧古賀銀行。ひな壇に見立てた階段にはノラネコが並び、さらに高さ約75センチのノラネコ8匹と記念撮影ができるフォトスポットもあって、見渡す限りノラネコだらけ。天井に浮かび上がる気球の中にはノラネコが搭乗しているものもあり、どんなノラネコに乗っているか探してみるのもいいかもしれません。窓にもノラネコが描かれていて、2階では折り紙やぬり絵を楽しむことができます。土日と祝日にはノラネコのイラストがあしらわれた「丸ぼうろ」が1日先着500人（1人1枚まで）に振る舞われるということで、この機会に手に入れてほしいです。

旧古賀家の入口を入ると、14代今泉今右衛門氏が制作した殿皿と姫皿が目に入ります。その先にある約50畳の大広間には、奇贈された約250体のひな人形が思いを紡いで展示されています。旧三省銀行では、360年の歴史を誇る和製手織絨毯「鍋島織通」が

旧福田家



旧古賀銀行



ノラネコぐんだんのフォトスポット



大人気絵本「ノラネコぐんだん」とコラボ

佐賀の街に春の訪れを告げる「佐賀城下ひなまつり」が、佐賀市柳町の旧古賀銀行を中心に開幕しました。今回のテーマは「春色さんぽ」。点在する12の会場ではそれぞれの色にちなんだ展示を楽しむことができます。初日となった2月14日は開場時間の午前10時よりも早い時間からチケット売り場に長蛇の列ができていました。何と言っても今回の目玉は「ノラネコぐんだん」とのコラボでしょう。

開場に先立って行われた開会式では、佐賀市の坂井英隆市長らが「佐賀の春を感じながら歩くことで、佐賀の街をより好きになってほしい。笑顔になって街を巡ってもらえれば」などとあいさつしました。そして、この日のために「大きなノラネコ」がお祝いに駆けつけて、1日限定で会場に足を運んだ人々を温かく出迎えていました。

12の会場のうち、五つの会場では周遊チケット（1000円）が必要になります。そのチケットが必要



旧三省銀行



飾られています。伝統的な花柄やひな祭りの文様が施されていて、思わずカメラを向けてパシャリ。旧福田家は伝統工芸「佐賀錦」をまとった優雅なひな人形を楽しむことができ、徴古館では旧佐賀藩主・鍋島家に伝わるひな飾りが勢ぞろいした大雛壇の迫力を味わ

えます。「ノラネコぐんだんPOPUP SHOP in 佐賀城下ひなまつり」が開催されている旧牛島家には初日から長蛇の列ができ、店舗内に人が入りきれないほどの人気ぶり。佐賀が誇る美味しいお菓子も大集合していて、鍋

佐賀の街に春の訪れ 佐賀城下ひなまつりを楽しもう

間限定の商品も楽しめるそうです。岡本さんの手作りの和菓子と和紅茶のハーモニーを感じてみてはいかがでしょうか。

旧古賀銀行から3分ほど歩いたところにたたずむ1963年創業の老舗洋菓子店「北村堂」（高木町）。現在は焼き菓子専門店だが、以前はショートケーキやシュークリームなどの生菓子も販売していたそうです。創業当初から愛されてきた「サブリーナ」。北村優さんが開発し、今は息子の哲也さんが「父が生み出した唯一無二の味」を引き継いでいます。材料は卵や小麦粉、砂糖とシンプルですが、1年を通して同じ仕上がりにするためには温度や湿度の変化を敏感に感じ取ることも大事だそうです。こだわり抜いて完成した生地であんずジャムを挟み、一晩寝かせることでしっとりしつつもサクサク感が残っています。「父が作った味を崩さないように、そして父がうなるぐらいの仕上がりにしていきたいですね」。そんな哲也さんの熱意のこもった一品を、



和紅茶専門店 紅葉 住所/佐賀市柳町4-7



北村堂 住所/佐賀市高木町3-9



いもあめごとう 住所/佐賀市東佐賀2-12



呉服茶屋 住所/佐賀市呉服元町7-4



enpuku 住所/佐賀市呉服元町7-12

ぜひ手にしてほしいと思います。東佐賀町に2023年にオープンした「いもあめごとう」は、旧古賀銀行から500メートルほど東に位置しています。代表の後藤遼さんは「周りに芋好きが多くて、誰かの好きをもっとおいしく提供したい」という思いから、さつまいもを使った加工商品を考えました。宮城県出身で熊本県の食品会社で働いていた後藤さんは、仕事の関係で佐賀県内の経営者と知り合ったことを契機に、縁もゆかりもなかった佐賀の地で店を始めたといっています。人気商品は「いもあめ」。定番のプレーン、きなこ、黒ごま、抹茶うぐいすに加え、期間限定のフレーバーもあり、いろんな味が楽しめる大学芋。外側はカリッとした食感で中はさつまいも本来のホクホク感を楽しむことができます。きなこ抹茶うぐいすは自家製の黒蜜をかけることで何だか幸せな気分。個人的には黒ごまの風味とさつまいもの味のマッチングに心を奪われました。餡がかかった芋チップス「いもべえ」やも

なかなども販売し、本店ではいもあめがのったパフェを食べることができま

柳町からは少し離れますが、呉服元町でランチを楽しむのもおすすめです。肉料理や和食、麺類などさまざまな店舗がありますが、今回は仕事の昼休みを訪れた2店舗を紹介したいと思います。まずは2023年9月にオープンした「enpuku」。上品な店内で落ち着いた雰囲気があります。メインのおかずは20〜30種類ほどあり、その中から日替わりで10種類ほどがランチメニューで提供されています。自家製のカレーやカツ丼が人気だそうです。そしてもう一つは2025年7月に古民家を改装してオープンした「呉服茶屋」。サラダにチキン南蛮、ご飯などが一つのお皿にのった「呉服飯」はボリューム満点で、手作りのタルタルソースとチキン南蛮の相性は抜群です。ワンピースの呉服飯は内容が変わることもあるので、インスタグラムでチェックすることをおすすめします。

佐賀城下ひなまつり information

2026年 2月14日(土) ▶ 3月15日(日)

周遊チケット 中学生以下無料/障がい者手帳等をご持参の方及び介助者1名無料
1,000円 [割引] 平日10名以上の団体は800円 (WEBサイトから事前にご予約ください)



詳細はこちらから

徴古館



旧福田家



旧古賀家



14代今泉今右衛門氏が制作した殿血と姫血



旧牛島家



島小紋のひな人形も展示されています。このほか、佐賀城本丸歴史館には佐賀市内の小中学生が製作した約1800体のおひなさまが勢ぞろいして圧巻です。軽食を楽しんだり、さまざまなワークショップを体験したりできる会場もあって、1日では時間が足りないかもしれませんね。

例年の来場は10万人ほどのことですが、子どもたちに人気のノラネコぐんだんとのコラボもあるということで、今年は15万人の来場を目指しているということです。周遊チケットを購入するといつてくるスタンプラリー台紙に各会場のスタンプをすべて集めると限定の丸ぼうろを手に入れることができます。

優雅で華やかな雰囲気包みこまれる佐賀の城下町。佐賀ならではの温かくゆつくりとした優しい空気感を感じながら「特別な時間」を過ごしてみたいかがですか。

例年と違った雰囲気味わって

佐賀市柳町を中心に開かれている「佐賀城下ひなまつり」。旧古賀銀行や旧古賀家、徴古館などでひなまつりを楽しむのはもちろん、せっかく足を運んだんだから食事や買物も楽しんでもらえれば…。そんな思いで周辺を巡ってみました。

柳町の通りを歩いていると目に入ってきたのは「和紅茶専門店 紅葉くれば」。入ってみると店内には50〜60種類の和紅茶が並んでいました。「古民家のような雰囲気のある場所です。店をやりたいたと考えていました。和紅茶に特化して、遠くからも楽しみに来てもらえます」と店主の岡本さん。旧森永家に2015年から店を構えていて、農家さんの畑や生産する工場を自身の目で見て仕入れているそうです。嬉野市や伊万里市の県内産から熊本県や鹿児島県の県外で作られたものが多数そろっていました。「和紅茶と和菓子のペアリングには力を入れています」と岡本さん。佐賀城下ひなまつりの期